

感・ど - する！！

- 生きるための知恵の輪 - 「環境・防災プログラム」開催概要

1 目的

新興住宅地である地域において、隣近所までは大人同士や子供は、お互い知っているが、班や隣の班、ましてや自治会となるとお互い知らない大人や子供が多い現状がある。また、最近の「子供のつれさり」をはじめとした犯罪が、住民の間に警戒感を持たせ、同じ町内の住民でありながら大人が子供に声掛けをしにくくしており、コミュニケーションの不足による孤立感を生じさせ、悩みがあるが、誰に相談していいのかわからない状況にもある。

加えて、阪神淡路大震災、新潟中越地震、能登半島地震に見られるように被災したときに「何をしたらいいのか」「どうしたらいいのか」など危機感はあるが、わからない状況にある。

そこで、環境防災学習をコミュニティ再生、ひいては「まちづくり」の一つの手段として、子どもと大人が協力して楽しみ・学びながら「顔の見える関係性」を創っていくことを目的として、環境・防災プログラムを開催する。

2 日時 平成 19 年(2007 年)6 月 2 日(土) 午前 10 時～12 時 30 分

3 場所 大津市立青山小学校体育館(大津市青山三丁目 16-1)

4 対象者 青山一丁目の子ども会の子ども、保護者、住民

5 内容 (時間は予定)

(1) 自分の家造ろう (15 分)

(2) 自分や参加者の家の位置を知ろう (15 分)

(3) 青山一丁目の危険な場所、避難場所、地震が起こったときに活用できそうな物・場所と遊び場所(何の遊び?)、生きものいる場所、食べられる物のある場所をみんなで知ろう (60 分)

(4) 顔見知りをもっとつって、地震が起こったときにお互い助け合おう (30 分)

(5) 消防署からの総評と心がけや普段気をつけておくことを話してもらう。 (15 分)

(6) かんぱんを食べてみよう (5 分)

(7) ふりかえり・インタビュー (15 分)

(8) その他

- ・家に帰ってからの会話のツールとして、仮称、青山巻き(地震発生後の状況をイメージして、自分を主人公とした物語を作る)を配付
- ・関係者でふりかえりを実施する。

6 主催 ・滋賀県協働部活プロジェクト環境学習班
(構成: 県職員・NPO 法人子どもネットワークセンター天気村・びわたん)
・大津市青山一丁目子ども会

7 協力 ・大津市青山一丁目自治会
・大津市消防局東消防署

8 しが協働部活プロジェクトとは?

地域の課題は地域で解決することを前提ですが、県とNPOがお互いの知恵や資源を出すことで、

より効率的で効果的に課題解決できる場合は、積極的に協働していただくことが重要です。

しかしながら、県においては組織の縦割りの弊害で、それぞれの課題解決のためとはいえ、違う部局で同じような事業を実施している現状があります。

そこで、部局横断的な協働先行モデルとして、県民にとって課題解決に向けたよりよいサービスを効率・効果的に提供できるようなテーマを公募し、そのテーマに関心のあるNPOと県職員を募り、中学校の部活に例え「しが協働部活プロジェクト」として、平成 17 年度から課題解決に向けて取り組んでいます。